

# 令和3年度、学校生活が始まりました。

# 舟山

発行者  
幸田町立南部中学校  
池田 和博  
第110号

今年度が始まって約二か月がたちました。昨年度はこの時期、学校は休業でした。しかし今年度は、様々な制限はありますが、新入生歓迎会や一年生オリエンテーションなどいろいろな行事を実施することができています。校内には、生徒たちの楽しそうな声が響いています。

五月八日から始まった春季体育大会もその一つです。昨年度は中止になった大会ですが、今年は、試合の実施日や会場などを分散したり、無観客にしたりするなど感染症対策をしっかりと行って大会開催されました。しかし、一部の種目を実施した後、緊急事態宣言が出されたため、現在、大会は中断しています。たいへん残念ですが、生徒たちは、大会の再開や夏の大会に向けて、気持ちを切り替えて練習に取り組んでいます。大会が一日も早く再開されることを願っています。その時は、応援よろしくお願ひします。結果については、大会が終了したところでお伝えします。

## 全員野球で勝ち上がる

野球部 三年 金澤 弘晟

チームの一人一人が任されたことを徹底し「勝つ」。優勝だけを意識してききました。そんな中、私は一か月前、肘に損傷が見つかり、野球ができない日々が続きました。そこで野球ができる環境は当たり前じゃないということを感じました。復帰したとき「野球、楽しい」と感じました。春季大会には間に合いました。



勝利をめざして

今大会は、先制し、逆転され、同点に追いつき、逆転するというゲーム展開でした。チーム全員で一点にこだわり、粘り強くプレーし続けました。しかし、結果は最終回、二点差を守り切れず逆転負けでした。「あとアウト三つ」。成長したところも実感したけど、課題も見つかりました。これからは、夏に向け、もっとみんなで努力して、いいチームになるつもりです。努力をおこたらず、南部中学校野球部全員で、夏に勝ち上がり、西三大会に出場します。

## 部活動ができるありがたさ

弓道部 三年 小林 蓮

私は弓道が好きです。一年生の時から、その気持ちは変わらず、今日まで続けてきました。しかし、新型コロナウイルスの影響で、それまでのように弓を引くことが難しい状況になりました。そんな中でも、仲間とアドバイスし合ったり、競い合ったりしてがんばれる環境ができ、練習に取り組んできました。



緊張の一射

今年は大大会に参加することができ、西三河大会では残念な結果でしたが、得られた経験はたくさんありました。そして春季大会では、西三河大会で感じた緊張や反省を踏まえ、練習と同じ気持ちで弓を引くことができました。惜しくも団体一位にはなれませんが、あと二か月で自分たちに足りないことを考え、南中弓道部をよりよくするためにがんばりたいです。

## 部活動体験を通して

一年 大須賀 莉穂

私は中学校生活で部活動を楽しみにしています。早速始まった体験入部では、第一希望であったバレー部に行きました。体育館に入ったところから先輩たちのあいさつが違いました。これがバレー部の雰囲気なんだと感じました。体験入部でも練習がきつく、体が慣れていくのが少し不安になりました。練習で実際にボールを打つ時間がありますが、レシーブ、スパイクともに、ボールが全然うまく当たらず、先輩たちのようないい音が出たりすることができませんでした。これから地道な努力を重ねて、先輩たちに少しでも追いつけるようにしたいです。自分のできるあいさつや返事をしっかりと行うことを第一に、早く練習に慣れ、バレー部の一員として、認めてもらえるように全力で取り組んでいきたいです。



先輩に追いつけ

## 学校行事のなかで

強く結びついた絆

一年 牧原 瑞季

一日目に「積木ワークショップ」を行いました。積み木で大きな家や町を作ること、自分だけではできない活動でした。みんなで声をかけ合いながら協力することができ、完成した時には達成感でいっぱいになりました。クラスで普段話さなかつた子と話しやすくなり、とてもうれしかったです。

二日目はレクリエーションで、みんなでしっぽ取りの王様を決めたり、大縄でかけ声をかけたりする場面がありました。みんな協力して、絆が深まったと思います。

このオリエンテーションを通じて、学年クラスの絆が深まりました。これからいろんなことがあっても、学年全員で助け合いながら、いろいろなことに挑戦していききたいです。



積み木を慎重に積む1年生

## 「人を笑顔にする」JYUの楽しさ

二年 矢野 翔

新入生歓迎会の二年生タイムで意識したことは、「二年生の緊張をほぐすこと」「南部中の魅力を伝えること」の二つです。最上級のおもしろさにこだわり、学年のみんなで劇を創り上げ、VTRにしました。土日に登校して練習したり、放課も自主的に行動したりしました。「やらなければ」という義務感は、ありませんでした。

もちろん、「二年生のために」という思いはありましたが、みんなと創り上げている時間が楽しくて、あつという間に時間が過ぎていきました。去年の予餞会の一年生タイムに引き続き、最高の出来になりました。自信はありましたが、一年生に笑ってもらえるかという心配もありました。しかし、想像以上の笑い声や笑顔が見られ「やってよかった!」と思えました。

私たち二年生は「人を笑顔にする」ために、今後も力を合わせて頑張ります。



劇を発表する2年生

## 迫力

三年 山本 瑠景

私たちは新入生歓迎会で、三年生になって初めてソーランを踊りました。新型コロナウイルスの影響で、今までに比べて練習する回数が少なく、全体で集まることもなかなかできませんでした。その中でも計画を立て、練習してきました。いざ本番になると不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、初めの言葉を言いたしたら、最高のソーランを踊ろうという思いが強くなりました。声を出すのはソーランリーダーだけでしたが、皆さんの先生方や一・二年生に「迫力があつてかっこいい」と言ってもらえて、とてもうれしかったです。しかし、まだまだだな所が多くあります。今回の反省点を振り返り、生かしていけるように、これからもがんばっていきたいと思えます。



南中ソーランを披露する3年生

## 結

三年 榎原 彩矢

私が生徒会執行部を経験するのは、今年度で二回目になります。昨年度は先輩方に支えてもらい、助けてもらうことが多くありました。しかし、今年度は私たち三年生が中心となつて一・二年生を引っ張っていかないとけません。また今年度も、新型コロナウイルスの影響で部活動の大会が延期・中止になり、行事でも制限されることなどがたくさんあります。そんな辛い状況の今だからこそ、全校生徒のみんなに一つのを創る楽しさ、全力でやり抜くことで達成感を感じられるような行事を創っていきたいです。生徒会スローガン「結」にあるように、全校や地域との関わりを大切に、二・四人の笑顔の花咲く南部中をつくっていけるようにがんばっていきます。



生徒会主催「先生方とのお別れ会」